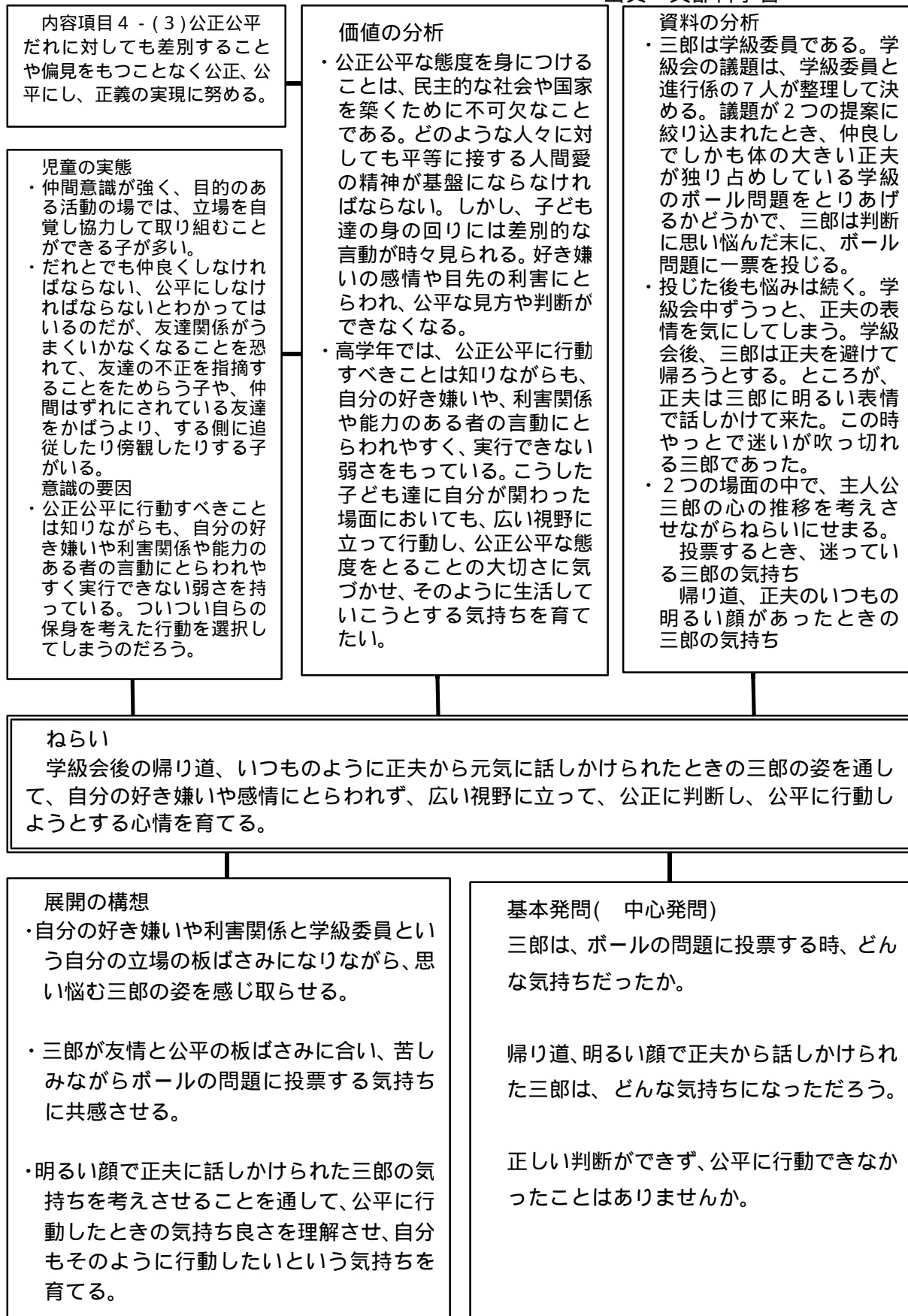


1、主題構成表

主題名 公正な一票

資料名 「ぼくはこうかいしない」

出典 文部科学省



2、学習指導過程

	基本発問と予想される児童の反応	指導・支援
つ か む 深 め る 見 つ め る	<p>(1)資料名、主人公「三郎」の紹介をし、正夫との関係を理解する。</p> <p>(2)資料を読んで、感想を話し合う。 ・三郎は、投票するときずいぶん迷っただろう。わたしだったら、投票しないかもしれない。勇気がある。 ・正夫から話しかけられた三郎はうれしかったと思う。 ・正夫は、三郎に怒らず話しかけていたのでえらいと思う。</p> <p>(3)三郎の気持ちを話し合う。 ボールの問題に投票するときには、どんな気持ちだったでしょう。 ・正夫君に嫌われるかもしれない。心配だ。 ・仲の良い正夫君が困ることになる。みんなに責められるのはかわいそう。 ・ボールのことでは、学級のみんなが困っている。 ・学級委員としては、独り占めされているボールのことに投票した方がいい。 ・正夫君はよくないことをしている。正夫君のためにも投票しよう。</p> <p>帰り道、明るい顔で正夫君から話しかけられた三郎は、どんな気持ちになったでしょう。 ・正夫君は怒っていない。ほっとした。 ・正夫君はわかってくれた。これからも友達だ。 ・みんなのことを考えて投票してよかった ・仲の良い正夫君に都合のよい投票にせず、学級のために正しいと思う方に投票してよかった。</p> <p>(4)自分の生活を振り返り、公平にふるまえなかったときのことを話し合う。 ・友達がけんかしているとき、嫌われたくなくて好きな子の方の味方をした。 ・転校して来た子の悪口を言っていた子に、よくないことをしていると思っても注意できなかった。自分も悪口を言われたくないから。 ・応援団を決めるとき、演説の良さよりも仲の良い子の方に手を挙げた。 ・給食当番の分担は、文句を言いそうな子には軽い仕事を分担している。</p> <p>(5)教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・三郎の学級委員という立場と正夫との関係を十分に理解させておく。 ・内容が理解されているかをつかむ。 ・道徳ノートに三郎の気持ちを書かせる。 ・ボールの問題に投票することは正しいと思いながらも、思い悩む三郎に同化させながら、自己を見つめさせる。 ・思い悩む起因、「友達関係」「利害関係」「学級委員という公平さを求められる立場」で類型化して板書する。 ・だれにでも人間的弱さがあることに気づかせる。 ・公平を貫き通し、それが認められたうれしさ、迷いながらも正しく判断できた自分への自信を感じ取らせる。 ・自分の生活を振り返り、公平に行動できなかったことに気づかせる。 ・道徳ノートに書かせる。 ・公平に行動できた体験も話す。 ・公平に行動したことが、その時だけでなく、その後にも生きることを感じさせたい。

